

## 栃木県における近代俳句の研究

星 美月

栃木県はかつて松尾芭蕉が訪れ旅行記『おくの細道』においてに記された地である。それについては県公式 HP に詳しい記載があるが、県内の俳句文化についての記載はない。同様に先行研究においても、どの地域に俳人が多いといった指摘に留まり、具体的な調査はされてこなかった。また、明治時代初期における松尾芭蕉の影響を受けた、旧派の俳人たちの研究もほとんどされていない。そこで、本研究の目的は、栃木県における近代俳句・俳人について調査し、当時の俳句文化の状況を明らかにすることとする。その結果、文化遺産の整理や郷土資料の情報発信に貢献できると考える。

研究方法は文献調査である。まず栃木県外で出版された俳書句を用いて、それらに掲載された栃木県の俳人について明らかにする。同時に、栃木県の各市町村史等資料を調査し県内における俳句文化とその扱われ方について分析を行う。また、県内の俳句・俳人のデータを収集し県内における当時の俳人の分布を調査し、数値化する。その結果明らかになった俳人の分布を栃木県の歴史や各種資料をふまえ、なぜそのような俳句文化であったかを考察する。

調査結果である。県外資料による調査から、当時の栃木県には、県外の俳書に俳句を投稿するなどして俳句活動に積極的な俳人が少ないながらも存在していたということが分かった。その一方、栃木県の市町村史の調査においては当時の俳句文化について記載があったものは 100 件中 8 件、それ以外の資料も非常に少なく、県内において俳句文化が注目されておらず当時の様子が明らかになっていないのではないかと考えられた。

次に、中田亮の明治時代の俳人の一覧をデータとして入力、俳人の分布を調査したところ、現在の鹿沼市・栃木市・宇都宮市・益子町などが特に俳人が多く、全体でみると栃木県の南部に北部と比べ多くの俳人が存在していたことが分かった。この結果から栃木県内では南部が早い時期から発展しており、文化活動や娯楽に時間を割くことのできる人々が多かったと推測される。次に、俳人の多い地域は日光や県外につながる街道が近辺にあったことから、県外からの人々の出入りがあり、商業の発展やほかの地方の文化に触れる機会が多かったのではないかと考えられた。また、それ以外の句集などから当時の俳人の一覧を作成することができた。

本研究では栃木県の当時の俳句文化の状況を明らかにすることができた。今後の課題はより多くの県内外の俳書を調査し、より詳しく栃木県の俳句文化を明らかにすることである。

(指導教員 綿抜豊昭)